

IEC News Letter

国際交流センター長あいさつ

本学の国際交流を推進するために、今年の4月に国際交流センターが発足し、私とそのセンター長になりました。

本学の国際交流はすでに始まっていて、昨年7月に韓国の東国大学慶州キャンパスと交流提携を結び、今年の1月にはすでに東国大学から8名の学生が本学の冬季日本語研修プログラムに参加しています。そして、あらたに、東国大学慶州キャンパスが8月に行う夏季韓国語短期研修プログラムに本学の学生を派遣することが正式に決定しました。



私自身、大学時代に一人で日本各地を旅していましたが、今でも残念に思うのは、海外に行かなかったことです。大学に入るのに1浪したということもあって親に負担をかけたくないという気持ちから、チャンスがあったにもかかわらず、留学することをあきらめていました。(当時アメリカの大学の3~4週間プログラムに参加するには40万ちかくかかったと思います。)しかし、今になってみれば、借金をしてでも、留学しておけばよかったと後悔しています。確かに、金銭的にはかなりの負担になりますが、留学がその後の学生生活や人生に与える影響を考えれば、努力して行く価値はあると思うからです。

来年の1月には東国大学慶州キャンパスから学生が日本語研修に来る予定です。前回のときには学生数人にランゲージパートナーになってもらい、東国大学の学生と本学学生との交流を促進する役割を果たしていただきました。今後は、このような国際交流の活動に協力してくれる学生たちを集めて、「名寄フレンズ」を作ることも考えています。国際交流に積極的に関わってみたいという学生はぜひご応募ください。

また、研究者間の交流も今後すすめていきたいと考えております。何かのテーマについて東国大学の研究者と共同研究をしたいと考えている方は国際交流センターまでご一報ください。共同研究の橋渡しも国際交流センターの重要な役割だと考えております。

本学の国際交流は始まったばかりです。本学の国際交流が今後活発に行われるよう、みなさんのご助言・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

国際交流センター長 小古間甚一(JINICHI KOGOMA)



名寄フレンズになりませんか？

本学の国際交流活動に協力してくれるメンバー「名寄フレンズ」を募集して

います。お問い合わせ、申込は国際交流センター委員までお願いします。

東国大学慶州キャンパス訪問

4月の24日と25日に東国大学慶州キャンパスを訪問しました。国際交流センターとしての今回の訪問のおもな目的は、8月に東国大学で行われる夏季韓国語短期研修プログラムへの本学学生の派遣の協議でした。

私にとっては初めての韓国訪問でしたので、見るもの・聞くもの・食べるものすべてが新鮮でした。ソウルからKTXという超特急（時速300キロ）とローカル線乗り継いで南へ約3時間。ソウルの寒さが身にこたえただけに、慶州に到着したときの第一印象は、その暖かさでした。高層ビルが立ち並ぶ大都会ソウルと比べると、慶州は落ち着いた歴史の町です。昼食を取ったレストランの近くには古墳が並び、車で30分ほど移動したところには世界遺産の「仏国寺」もあります。私たちが訪問した日は修学旅行シーズンだったらしく、バスと子供たちであふれかえっていました。日本で言えば、京都のようなところですよ。

慶州の丘陵地に東国大学慶州キャンパスがあります。学生数約10000人が在籍する大学です。仏教系の大学だけあって、キャンパスの中にお寺もありました。総長室でのあいさつをすませたのち、大会議室で大学間の交流についての話し合いが行われました。今回の訪問者は私をはじめ学長、黄先生、中島先生、結城先生、メドゥズ先生の6人でした。特に私はセンター長として夏季韓国語短期研修プログラムへの学生派遣の打ち合わせをすることが訪問のおもな目的だったので、大会議室での話し合いのあと、国際交流担当者と国際交流室に移り、夏季の派遣についての大枠を決めてきました。その場では、夏季の派遣のこと以外にも、1月に本学で行う日本語研修のことや、さらには、東国大学への長期的な留学（6ヶ月・1年）についての話もありました。留学に関する詳しい内容は「IEC News letter」やポスターを通じて後日お知らせします。

韓国では釈迦の誕生日を祝うイベントが各地で行われており、慶州キャンパスでも夕方よりイベントがありました。提灯を持った多数の教職員と学生たちが校内を歩きまわったあと、東国大学のシンボルであるゾウの石像前に集まり、僧侶とともに一斉にお経を唱えます。大学の方に提灯を調達してもらい、私たちもイベントに参加しました。お経が終わった直後には花火が打ちあげられ、その美しさと豪華さに私たち全員すっかり圧倒されてしまいました。二日目の午前中は「仏国寺」や歴史資料館などを見学し、午後は大学に戻り、社会文化院に通う社会人の方たちの民族舞踊を見せていただきました。

ソウルと慶州の往復も含めて数日間の韓国訪問でしたが、わたしにとってはたいへん刺激的な毎日でした。言葉の違いはもちろんのこと、文化や国民性の違いも肌で感じることができました。そして、何よりも、韓国の食事はおいしい！これまでアメリカには長期滞在も含め数回行ってはいますが、いつも日本食が恋しくてしかたがありませんでしたが、今回の韓国滞在ではそのようなことはまったくありません。本学学生の派遣プログラムが正式に決まりましたので、学生のみなさんにはぜひ留学されることをお勧めします。（小古間 甚一）



夏期短期語学研修（韓国語）の募集を開始します。

交流協定校東国大学慶州キャンパスでの約2週間の研修です。詳細は要項をご覧ください。要項希望、お問い合わせ・ご相談、参加申込は

下記説明会に出席もしくは国際交流センター委員までお願いします。
説明会： 6月9日（月） 18：30～ 恵稜館3階共同研究室1